

令和7年度 第1回審議会の振り返り

— 第1回 飯田市これからの学校のあり方審議会 会議録概要

開催日時	令和7年7月1日(火) 19:00~20:40
開催会場	飯田市役所 C311~C313 会議室
出席者	審議会委員(以下敬称略) 後藤正幸、三浦弥生、會川百樹、原雅彦、玉置洋一、飯島政樹、山浦貞一、吉野久美、 村山雅也、勝野久美恵、下沢晃世、伊藤桂子 (オンライン)坂野慎二、井出隆安 (欠席)松岡香代子 オブザーバー 北澤正光(飯田市教育長職務代理)
配布資料	1 次第 2 配席図 3 委員名簿 4 事務局名簿 5 飯田市これからの学校のあり方審議会条例 6 飯田市の学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について(諮問) 7 飯田市これからの学校のあり方審議会これまでの審議経過 8 飯田市学校を取り巻く教育環境の変化への対応に必要な方策について(一次答申) 9 飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ~第1次~【概要版】 10 飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針 ~第1次~ 11 飯田学園構想について 12 今後の審議の方向性について

(正副会長の選任までの間の司会進行：秦野教育次長)

1 開会

2 任命書交付

3 熊谷教育長あいさつ

- ただいま飯田市のこれからの学校のあり方審議会の委員の任命書をお渡しした。
- 学識経験者の皆様、まちづくり委員会の会長様、公民館長様、学校長様、さらに、市PTAの皆様方、保育園認定こども園の保護者の皆様方に委員としてお願いをいたしました。それぞれの立場でご経験を生かして、また15名の皆様方にご意見を賜りたい。
- 飯田市これからの学校のあり方審議会は、令和5年、令和6年と会議を重ねてきており、慎重な審議をいただき、第1次方針を決定することができ、本年4月から飯田学園構想をスタートさせることができた。
- スタートする前に全てを準備したというよりは、スタートしながらこの1年かけて、例えば学園ごとのめざす子ども像を、学校だけではなく、保護者の皆様方や地域の皆様方のご意見も伺いながら進めていく。学園ごとに学園地域コーディネーターという地域に詳しい方を、特に「みらい創造科」のコーディネート役の1人としてご活躍いただくようお願いした。さらには、学園ごとに「みらい創造科」という探究的な学習のカリキュラムづくりを進めている。
- そもそもそのねらいは、学園ごとの特色を改めて見直していただいて、小中一貫教育の中で魅力的な教育活動を実践していただくこと、そのことが子どもたちにとっては通いたい、学園あるいは保護者や地域の皆さんにとっては、通わせたい学園にしてみたいという、そんな願いを持って進めている。
- 総合的な学習の時間や生活科の内の25時間程度と決めた「みらい創造科」の学習が、これまでのように先生方や地域の方に用意周到に準備された上で体験できるという学びではなく、子どもたちが自らの問いや願いを持って、それを自ら追求していく、そんな探究活動へと授業観を変えていきたい。それにより、子どもたちの主体的な学びが充実し、さらには地域の人、も

の、こととの関わりが深まり、そして、そのことが地域への愛着に繋がっていくのではないかと考えている。

- まだまだ、外から見て、見える部分というのはそんなに多くはないので、何が変わったのかなというところはまだ見えづらいところが多々あるかとは思いますが、準備を進め、めざす子ども像に向けた各学園の9年間の実践を通して、それを充実させ、今後もますます進んでいくであろう少子化、あるいは校舎の老朽化等も踏まえながら、さらには保護者の皆様方や地域の皆様方のご意見、お声もしっかりと受け止めながら第2次方針の策定に向けて進めてまいりたい。

- 本日は、これまでの審議の振り返りをしながら今後の審議の方向性についてご審議いただく。これから2年間という長い期間になるが、よろしくお願いします。

4 審議会について

5 自己紹介

6 正副会長選任

(司会進行)

- それでは、正副会長の選任に移る。
- 資料No.4の飯田市これからの学校のあり方審議会条例の第6条のとおり、会長、副会長は委員の互選により選出することとなっている。選出方法について、皆様からご意見があれば賜りたい。
- 特にないようですので、事務局より案を発表させていただく。
 - 委員が頷き同意 —
- 事務局案を発表する。会長を後藤委員に、副会長を三浦委員にお願いしたい。
 - 全委員が拍手 —
- 拍手多数と認め、会長を後藤正幸委員、副会長を三浦弥生委員にお願いする。

7 正副会長あいさつ

(後藤会長)

- 皆様のご協力をいただき、精一杯、務めてまいりたい。
- 先ほど坂野委員さんからご紹介のあった研究会の時の委員から本件に関わらせていただいている。また、一昨年設置された本審議会の会長としてお世話になった。改めて、いただいた諮問内容の重大さと、新たな局面に入っていくことの責任をひしひしと感じている。
- 前審議会が行った一次答申には「学校・家庭・地域と十分協議して検討を進めることが大事である」という意見が付けられているが、本審議会においても、丁寧な協議が重ねられるように努めてまいりたい。
- 本審議会に参加する全ての人にとって、快いものになりますように、ご支援ご協力のほどお願いし挨拶とする。

(三浦副会長)

- 飯田短期大学で養護教諭の養成に携わっておりまして、この飯田市の保健室の先生の中にも卒業生が大変お世話になっている。
- また、昨年12月まで教育委員を8年間努めていたが、毎年、飯田市の小・中学校を訪問させていただき、学校の様子を見させていただいた経験も生かしながら、飯田市の大切な学校のことを真剣に考えていきたい。
- 副会長としまして、会長をサポートしたい。

8 議事

(1) 諮問事項について

- 上沼教育政策課長から資料に基づき説明
- 委員からの質疑等なし発言なし

(2) 令和5、6年度の審議について

- 上沼教育政策課長から資料に基づき説明
- 委員からの質疑等なし発言なし

(3) 飯田学園構想について

○(事務局)北澤教育センター所長から資料に基づき説明

(下沢委員)

○今後の要望となるが、ひさかたチャレンジの活動の様子の部分では、写真が出てきて、これからどういう形で本格的な橋をこの子たちは作るのかなとか、初めて具体的な例を見た。

○まだ始まったばかりではあるが、今後もこういう具体的な写真等で、こういった活動をしているのかというところを、ぜひ教えていただきたい。

(北澤所長)

○このような報告ができますよう、現場の支援にまいりたい。

(4) 今後の審議の方向性について

○上沼教育政策課長から資料(資料No.4)に基づき説明

(後藤会長)

○具体的な議論は次回からということになるわけだが、坂野委員、井出委員から、コメントをいただきたい。

(坂野委員)

○今日の説明の最後にあった、これから具体的に実際の学園をどのような形で、この後10年、20年、30年を考えていくのかということ、恐らく具体の枠組みを考えていくことが、この会議の役割かなと思う。

○他の自治体では、上で決めたことをただ伝達してやりますというところもあるが、飯田市は、ボトムアップということをととても強調されている。ということは、地域の方たちの意見をできるだけ聞きますというスタンスということ。

○ただ、一つだけ教育委員会へのお願いとして、同時に、「教育委員会の方で案を出してくれないと、なかなか先に進まないよね」ということが、これまでの議論の中でもあった。その塩梅みたいなものを少し考えていただきながら、教育委員会の方からも、地域などから言われた時には、「固定したものということではないが、案としてはこのような案がありますよね」というご提案をいただけるような形で、地域の方と対話をしながら進めていけると良い。

(井出委員)

○今後の方向性の資料の中の「第二次方針の基本的な考え方案」というところで、視点が5つ整理されているが、特に坂野委員も指摘されたボトムアップというところを整理していくと、視点4は非常に重要な視点になってくる。

○この間、議論をしていく中で整理されたものですから、今日突然に出てきたわけではなく、これまでの審議会のあり方を改めて確認し、それを踏襲してやっていこうという方向性であり異論はない。

○ただし、これは、いわゆる行政施策の執行計画、あるいは執行手続き、あるいは執行手順としての建前としてあるわけではなく、内容が非常に広いもの、深いものを含んでいる。諮問の中に、あえて付帯意見として、学校、家庭、地域と十分協議して検討を進めること、というように釘を刺しているのは、これはただ慎重にやりましょうということだけではなく、この計画を進めていくことが、とりもなおさず、地域の再生、あるいは地域コミュニティの活性化、あるいは衰えている家庭の教育力の再生、あるいはもっと広く、地域の教育力の再生に繋がるそういった手続きであり、手順であり、取組だということを指摘している。

○つまり、何かここで考えたことを、これでやっていこうというように決めるのではなく、困っていること、解決すべき課題をどのようにやっていきますかという協働の取組を通して、地域の人たちが話し合い、力を出し合い、こどもを中心にまとめていくという取組は、地域の活性化に必ず繋がる。

○出会った人たちがその問題を中心に話をするようになり、あるいは先ほど発表されたひさかたプロジェクトもそうだが、当然そこには地域の方々が絡んでいる。単に児童が池に入って、あった、なかったと、言っているだけではなく、昔の事をよく知っている方からのアドバイスもあったはず。そうやって、人と人との繋がり、人と地域との繋がり、学校と地域との繋がりが再生していく、単に具体的な手続きとして、こういうようにやっていきますということだけではなくて、そのことを通して、地域の再生、あるいは地域の教育力の再生、あるい

は家庭の教育力の再生に繋がっていく、とても大きなプロジェクトに取り組もうとしているのだと思っている。

(後藤会長)

- 本日の議論では、ボトムアップという言葉が何回もでてきた。
- 今、この学校の問題以外においても、地域でも、そのボトムというのが弱まってきていないかというような感覚で色々な話を聞いている。そういうことを考えるにつけ、実はこのように学園構想を地域の皆さんとともに進めようとしていることが、ボトムを強化することにもなると感じた。
- そういう意味では、トップダウンとボトムアップというこの二つ、言葉だけの問題ではなくて、この審議会を通して、私自身も有意義な会にしていけたらいいと思う。

9 連絡事項

10 閉会挨拶

(三浦副会長)

- 本日は事務局から、今までの経過についての説明が主だった。経過の説明の中でも、これまでに丁寧に審議をいただいていることを感じた。
- また、飯田学園構想がスタートして、その中に「みらい創造科」ということで探究の授業として、本当に子どもたちが夢中になって、ワクワクして、ドキドキする、というそんなお話があり、子どもたちの表情も目に浮かんできた。
- 最後に、私たちが、これから審議する内容の報告があった。難しい課題であると感じたが、一次答申の時の審議同様、これからの審議に関しましても、ゆっくりと丁寧に、そして、しっかりと審議して、良い答申を出していきたいなと感じている。
- 難しい課題ではあるが、課題に前向きに取り組んで、こどものワクワク、ドキドキではないが、子どもたちの元気な笑顔を脳裏に浮かべながら、前向きに審議していきたいと強く感じた。
- 皆様、本日はお疲れ様でした。